

リアルタイムOS M3T-MR308およびM3T-MR30 ご使用上のお願い

M16Cファミリ用リアルタイムOS M3T-MR30およびM3T-MR308の使用上の注意事項を連絡します。

- DORMANT状態に移行中のタスクに対して`isus_tsk`システムコールを発行する場合の注意事項

1. 該当製品

M32C/90, M32C/80, M16C/80 およびM16C/70シリーズ用:
M3T-MR308 V.1.00 Release 1 ~ M3T-MR308 V.1.20 Release 1B

M16C/60, M16C/30, M16C/Tiny, M16C/20 およびM16C/10シリーズ用:
M3T-MR30 V.1.00 Release 1 ~ M3T-MR30 V.3.30 Release 1

2. 内容

`ext_tsk`システムコールによってDORMANT状態に移行中のタスクに対して、`isus_tsk`システムコールが発行された場合、以下いずれかの現象が発生する場合があります。そのため、以後システムが正常に動作しない場合があります。

- (1) `isus_tsk`の戻り値としてE_OBJが返されず、E_OKが返される。
- (2) `ext_tsk`が発行されたタスクと同一優先度で、実行可能状態にあるタスクが、実行可能状態のままレディキューからはずされ、カーネル管理データに矛盾が発生します。

2.1 発生条件

以下の条件をすべて満たす場合に発生することがあります。

- (1) 割り込みハンドラ、アラームハンドラ、または周期起動ハンドラから`isus_tsk`システムコールが発行された。
- (2) `isus_tsk`の対象タスクは、DORMANT状態に移行する可能性のあるタスクである。

- (3) isus_tskを発行したハンドラは、ext_tsk処理中に発生した割り込みによって 起動された。
- (4) isus_tskの対象タスクにおいて(3)のext_tskシステムコールが発行された。

3. 回避策

以下の例のようにisus_tskが発行されるタスクを無限ループで処理し、 ext_tskによってDORMANT状態にならないようにしてください。

例

```
-----  
void task1(INT stacd )  
{  
    .....  
    while(1){  
        /* タスク処理 */  
    .....  
    }  
}  
  
void inth(void)  
{  
    .....  
    isus_tsk(ID_task1);  
    .....  
}  
-----
```

4. 恒久対策

M3T-MR30は、次期バージョンで改修する予定です。

M3T-MR308は、M3T-MR308/4 V.4.00 Release 00で改修済みです。

M3T-MR308/4 V.4.00 Release 00へのバージョンアップについては、2005年7月1日発行のツールニュースを参照ください。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

